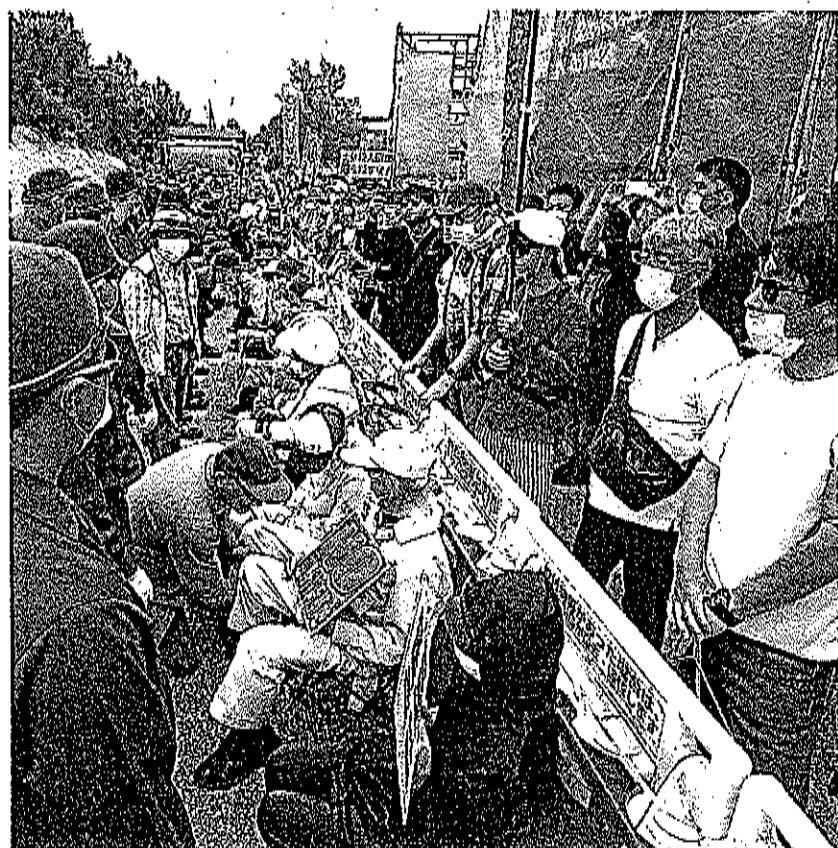


5/16 朝

# 沖縄復帰51年 消えぬ苦悩



## 辺野古 抗議と排除

沖縄は15日、日本への復帰から51年を迎えた。米軍普天間飛行場(宜野湾市)の移設工事が進む名護市辺野古では、

計画に反対する抗議集会があ

り、「新基地反対」と書かれたプラカードを持った市民ら約200人が集まつた。玉城デニー知事は復帰51年に合わせたコメントで「県民の理解が得られないまま工事が強行

されたいる」と抗議した。

▼オピニオン面=社説・耕論  
15日朝、辺野古沿岸部に広がる米海兵隊キャンプ・シユワフ前で「基地をつくらせない」と声が上がつた。座り込みをしていた市民らが県警の機動隊に排除され、土砂を運ぶ大型トラックが次々に基地内に入つていつた。週に2度、座り込みをしているという沖縄市の仲宗根喜美子さん(元)は「子どもたちの未来に基地はないらない。計画が中止されるまで続けたい」と話した。

沖縄では、国土の0・6%の土地に国内の米軍専用施設の7割が集中する状況が続くなか、自衛隊の新たな部隊配備など増強が進む。

(北嶋辰政、棚橋咲江)

復帰から51年を迎え、基地の前で抗議行動を行う人々に機動隊員が移動を促していた。15日午前9時21分、沖縄県名護市、吉本美奈子撮影